

# 令和5年度病院事業会計決算の概要

医療部 医療政策課

## 令和5年度病院事業会計決算の概要

### 1 収益的収支（営業活動などに伴う収支）（税抜）

#### 当年度経常損益

区 分	経 常 収 益	経 常 費 用	差 引
弥 栄 病 院	38 億 2,335 万 9 千円	40 億 9,549 万 8 千円	△2 億 7,213 万 9 千円
	前年度 42 億 2,123 万 8 千円	前年度 41 億 8,727 万 5 千円	前年度 3,396 万 3 千円
久美浜病院	31 億 89 万 5 千円	30 億 9,873 万 5 千円	216 万円
	前年度 30 億 2,460 万 8 千円	前年度 30 億 332 万 5 千円	前年度 2,128 万 3 千円
病院事業	69 億 2,425 万 4 千円	71 億 9,423 万 3 千円	△2 億 6,997 万 9 千円
	前年度 72 億 4,584 万 6 千円	前年度 71 億 9,060 万円	前年度 5,524 万 6 千円

#### 当年度純損益

区 分	総 収 益	総 費 用	差 引
弥 栄 病 院	38 億 3,978 万 6 千円	41 億 1,116 万 8 千円	△2 億 7,138 万 2 千円
	前年度 42 億 4,158 万 8 千円	前年度 44 億 542 万 8 千円	前年度 △ 1 億 6,384 万円
久美浜病院	31 億 4,396 万 4 千円	31 億 397 万 2 千円	3,999 万 2 千円
	前年度 30 億 8,898 万 3 千円	前年度 32 億 3,680 万 9 千円	前年度 △ 1 億 4,782 万 6 千円
病院事業	69 億 8,375 万円	72 億 1,514 万円	△ 2 億 3,139 万円
	前年度 73 億 3,057 万 1 千円	前年度 76 億 4,223 万 7 千円	前年度 △ 3 億 1,166 万 6 千円

## 2 資本的収支（建設改良事業など投資活動に伴う収支）（税込）

区 分	資本的収入	資本的支出	差 引
弥栄病院	3億7,379万8千円	5億260万5千円	△1億2,880万7千円
	前年度 4億1,117万5千円	前年度 5億3,667万1千円	前年度 △1億2,549万6千円
久美浜病院	2億8,739万6千円	3億3,192万8千円	△4,453万2千円
	前年度 4億5,587万5千円	前年度 6億687万円	前年度 △1億5,099万5千円
病院事業	6億6,119万4千円	8億3,453万3千円	△1億7,333万9千円
	前年度 8億6,705万円	前年度 11億4,354万1千円	前年度 △2億7,649万1千円

※差引収支不足額は、損益勘定留保資金等で補てん

### 【建設改良費】 2億7,923万9千円を投資

弥栄病院（建物設備整備、医療機器等購入、車両購入、リース債務支払）	久美浜病院（建物設備整備、医療機器等購入）
1億9,974万9千円	7,949万円

### 【主な財源】 2億7,727万4千円を充当

企業債	2億2,000万円	府・国保会計等補助金	5,727万4千円（昨年度分に対する4,000万円除く）
-----	-----------	------------	------------------------------

## 3 患者数の状況

区 分	入院延患者数	入院延患者数		外来延患者数	訪問看護利用者	通所リハビリ利用者
		一般病床	療養病床			
弥栄病院	41,624人	41,624人	0人	85,570人	12,109人	—
	前年度比 +1,590人			前年度比 △8,767人	前年度比 △1,011人	
久美浜病院	50,892人	31,904人	18,988人	80,730人	8,922人	3,453人
	前年度比 +6,814人			前年度比 +3,445人	前年度比 △202人	前年度比 △160人
病院事業	92,516人	73,528人	18,988人	166,300人	21,031人	3,453人
	前年度比 +8,404人			前年度比 △5,322人	前年度比 △1,213人	前年度比 △160人

## 令和5年度 弥栄病院事業会計決算の概要

### 1 概況

- 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症へと移行され、限られた医療機関による特別な感染症対応から幅広い医療機関による自律的な通常の対応となったが、5月以降も引き続き新型コロナ専用病床の確保を継続しながら、10月には丹後町及び弥栄町内の診療所や福祉施設を対象とした連携会議を主催し、在宅療養や入院支援などの更なる連携強化に取り組み、また訪問診療の医師体制を4人から5人へと強化するなど、運営・経営改善に努めつつ、地域医療体制の確保に取り組んだ。
- 入院は、コロナ感染症5類移行後にA5病棟をコロナ専用病床と一般病床に区分して入院患者の受入を行ったことなどにより、患者数・診療収入とも増加し、外来については、整形外科医の交代に伴う一般外来患者の減少に加え、救急受入れ患者の減少もあり、患者数・診療収入ともに減少した。外来診療収入の減少、コロナ病床確保補助金制度の改正等による関連補助金の減額等により、前年度に比べ入院患者数は増加したが事業収益は減少し純損益は赤字となった。

### 2 医療提供体制の状況

#### 【常勤医師】

常勤医	令和5年4月1日	令和6年3月31日	差 引	備 考
内科	7人	7人	—	令和5年4月1日付け2人採用
外科	1人	1人	—	
産婦人科	4人	4人	—	令和5年4月1日付け1人採用
小児科	1人	1人	—	
眼科	1人	1人	—	
泌尿器科	1人	1人	—	
総合診療科	1人	1人	—	
計	16人	16人	—	

○医師招聘に向け、関係大学等への要請活動を続ける中、令和5年4月に産婦人科医師1名、内科医師2名を採用し、昨年度当初より3名多い16人体制でのスタートとなった。

【研修医の受入れ状況】

派遣元病院	令和4年度	令和5年度	差引	備考
京都第一赤十字病院	6人	1人	▲5人	1人1ヶ月、延べ1ヶ月
京都第二赤十字病院	5人	5人	—	5人2ヶ月、延べ10ヶ月
神戸市立医療センター中央市民病院	4人	4人	—	1人1ヶ月、延べ4ヶ月
京都府立医科大学附属北部医療センター	1人	1人	—	1人1ヶ月、延べ1ヶ月
京都府立医科大学附属病院	0人	1人	+1人	1人1ヶ月、延べ1ヶ月
宇治徳洲会病院（専門医研修）	4人	4人	—	1人3ヶ月、延べ12ヶ月
計	20人	16人	▲4人	

○関係機関からの非常勤医師派遣、研修医や専門医の積極的な受け入れに努め、主に外来の患者需要に応えることができた。

【職員の状況】（会計年度任用職員を除く）

職種	令和5年4月1日	令和6年3月31日	差引	備考
医師	16人	16人	—	
助産師	13人	12人	▲1人	
看護師・准看護師	113人	113人	—	
薬剤師	6人	6人	—	
技術部職員	47人	46人	▲1人	
栄養部職員	2人	2人	—	
事務部職員	11人	11人	—	
計	208人	206人	▲2人	

○令和5年4月1日付けで医師3人、助産師1人、看護師4人、薬剤師1人、臨床検査技師1人、7月1日付けで看護師1人を採用した。年度内に助産師1人、看護師1人、理学療法士1人が、年度末で医師4人、助産師1人、看護師4人、事務職員1人が退職した。

### 3 地域包括・医療ケアシステムの推進

- 野野間診療所や福祉施設への医師派遣のほか、訪問診療医師体制を4人から5人とする等、在宅医療センターを核とする地域包括・医療ケアを展開し、また2つの訪問看護ステーションと訪問リハビリテーションセンターにより、訪問看護、訪問リハビリ等の年々増加する需要に対応した。

### 4 地域活動・病院理解のための取組取組

- コロナ禍に配慮し、病院まつりや院内でのクリスマスコンサートなどの行事を中止したが、病院周辺清掃、小学生の書道展示、写真掲示等院内ボランティアの受け入れを行った。
- オープンホスピタルについては、感染対策に配慮した上で開催し、将来医療職を目指す丹後圏内の高校生を対象に、医師、看護師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学療法士など、様々な医療現場で働く職種・職場を紹介し、27人の生徒に参加いただいた。中学生の職場体験学習では2校から12人の生徒を受け入れた。
- 看護の仕事や救急救命講習会など、医療スタッフが市内の小中学校や高等学校等に出向き、出前講座を実施した。(R5:21講座 延べ約950人、R4:33講座 延べ約1,220人)

### 5 建設改良等の状況

- B棟自動消火装置設置工事実施設計(257万6千円)
- 眼科用冷凍手術装置、上部消化管汎用ビデオスコープ、MRI、輸液ポンプ、内視鏡下外科手術用ビデオスコープ、中型自動採血管準備装置、全身麻酔装置、放射線画像管理システム等を購入(総額1億9,389万円)
- 訪問看護用車両購入(79万8千円)
- リース債務支払い(248万5千円)

### 6 経営効率化への取組

- 経営コンサルタントによる第三者評価の実施、各職場の目標設定やコスト意識の徹底、薬剤メーカーやSPD委託業者等への価格交渉の徹底 ⇒ 医療機器・診療材料等購入に係る効果額:約565万円
- 診療報酬請求の施設基準経過措置の届出を更新。

## 7 未収金の状況

- 弁護士法人への回収業務委託の継続、早期の電話連絡、文書督促や催告の徹底
  - ・令和6年3月末窓口未収金 3,553万6千円（前年度比▲71万円、2.0%減）

## 8 総括

- 入院延患者数 41,624人（前年度比1,590人増）入院収益 18億4,452万円（前年度比+6,165万5千円、3.5%増）
  - 外来延患者数 85,570人（前年度比8,767人減）外来収益 7億7,375万4千円（前年度比▲2億5,838万4千円、25.0%減）
  - 訪問看護件数 12,109件（前年度比1,011件減）訪問看護収益 1億1,037万5千円（前年度比▲907万7千円、7.6%減）
- 医業外収益のうちコロナ関連補助金：1億5,794万1千円（対前年▲2億4,590万5千円）
- 経常収支：▲2億7,213万9千円（前年度 3,396万3千円）
- 純損益：▲2億7,138万2千円（前年度 ▲1億6,384万円）

### 【原因と分析】

- 常勤の産婦人科医師、内科医師の採用により診療体制の拡充が出来たこと、また入院患者の増加により入院収益は増加したものの、外来患者数の減少により外来収益が大幅に減少したことと、コロナ病床確保補助金制度の改正等による関連補助金の減額等により、経常収益は前年度より3.9億円の減収となった。
- 一方で事業費用については、常勤医師が増えたことや会計年度任用職員の処遇改善などにより給与費の増加があったが、薬剤メーカーやSPD委託業者等への価格交渉等により材料費の削減があり、また医薬分業化（R4年6月から）による薬品費の減少等により、前年度との比較では経常経費が9千万円の削減となったが、事業収益が減少したことにより純損益は赤字となった。

## 9 経営指標の推移

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支比率	92.0%	94.4%	100.1%	100.8%	93.4%
修正医業収支比率	80.8%	82.8%	80.7%	77.6%	74.4%
病床利用率	68.9%	70.2%	66.6%	67.7%	70.2%
職員給与費比率	61.7%	61.0%	61.9%	69.9%	76.0%
有形固定資産減価償却率	37.9%	41.6%	45.2%	48.2%	50.7%
器械備品減価償却率	69.9%	72.9%	75.7%	77.6%	77.2%

○経営の健全化を示す経常収支比率は、93.4%で、前年度比7.4ポイント減、健全経営の水準とされる100%を下回った。

○医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は74.4%で、前年度比3.2ポイント減となった。

○償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、病院改築整備の竣工により50.7%と低い一方、医療機械備品の減価償却率を示す機械備品減価償却率は77.2%で、前年度比0.4ポイント減となった。

## 令和5年度 久美浜病院事業会計決算の概要

### 1 概況

- 令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが2類相当から5類へと移行しましたが、依然、感染者が後を絶たない状況の中、感染対策を図りながら、将来にわたって市民の期待に応えられる新しい病院づくりを前進させるため、引き続き小児医療の充実や口腔疾患予防、眼科や外科の診療体制の継続、訪問看護の充実などに取り組むこととし、市民の命と安心・安全を守る公立病院としての使命を果たすため、病院長を先頭に職員一丸となって取り組んだ。
- 入院では、地域医療連携室の体制強化により県境を越えて隣接する但馬地域の病院等からの患者の受入れによって入院患者数、入院収益ともに増加しました。外来では、患者数は増加したものの、コロナ関連の診療報酬の改定により外来収益は前年度より減少した。また、コロナ関連事業補助金が前年度よりも減額となったが、事業収益の増加により経常収支、純損益ともに黒字となった。

### 2 医療提供体制の確保

#### 【常勤医師】

常勤医	令和5年4月1日	令和6年3月31日	差 引	備 考
内科	5人	5人	—	
外科	4人	4人	—	
整形外科	1人	1人	—	
小児科	2人	2人	—	
麻酔科	1人	1人	—	
泌尿器科	1人	1人	—	
歯科口腔外科	4人	4人	—	
計	18人	18人	—	

- 令和5年度は小児外科医師1人の採用と、眼科医師1人の退職に伴い医科14人と歯科4人の医師18人体制でスタートとなった。医師招聘に向け、関係機関等への要請活動や依頼、情報収集等に努め、年度内には実現できなかったが、小児外科医師の2人体制により小児医療、小児救急医療体制の充実に繋がった。

### 【研修医の受入れ状況】

派遣元病院	令和4年度	令和5年度	差引	備考
京都第二赤十字病院	9人	9人	－	9人2ヶ月、延べ18ヶ月
京都府立医科大学附属北部医療センター	1人	－	▲1人	
京都府立医科大学	1人	－	▲1人	
京都第二赤十字病院（専門医研修）	－	1人	+1人	1人3ヶ月
洛和会音羽病院（専門医研修）	3人	3人	－	1人4ヶ月、延べ12ヶ月
洛和会丸太町病院（専門医研修）	1人	2人	+1人	1人3ヶ月・6ヶ月、延べ9か月
計	15人	15人	－	

○関係機関からの非常勤医師派遣、研修医や専門医の積極的な研修受け入れにより医療提供体制の確保に努めた。

### 【職員の状況】（会計年度任用職員を除く）

職種	令和5年4月1日	令和6年3月31日	差引	備考
医師	18人	18人	－	
看護師・准看護師	97人	95人	▲2人	看護師3人途中退職、1人中途採用
薬剤師	4人	4人	－	
技術部職員	21人	21人	－	
栄養部職員	1人	1人	－	
事務部職員	8人	8人	－	
計	149人	147人	▲2人	

○令和5年4月1日付け看護師5人を採用した。また、看護師1人を中途採用した。年度内に看護師3人が退職し、さらに年度末で内科医師1名、外科医師1名、看護師1人（短期再任用職員）が退職した。

## 3 地域包括医療・ケアシステムの推進

○佐濃診療所や福祉施設への医師派遣

○関係団体との地域ケア会議の定期開催（毎月、12回）による情報共有

※地域医療連携室を通じた医療・介護・福祉相談等対応 15,285件（前年度比2,428件減）

※豊岡病院をはじめとする兵庫県北部からの患者受入れ 延べ9,364人（前年度比5,305人増）

#### 4 地域活動・病院理解のための取組

- コロナ禍の影響により久美浜病院まつりを中止した。
- 環境美化等延べ146人のボランティアを受入れた。
- 感染症対策に係る講座や保育所・認定こども園歯科教室のほか、久美浜病院の医療を広くPRする出前講座を実施した。  
（19講座延べ537人、R4は16講座延べ325人参加）

#### 5 建設改良等の状況

- 2号館スプリンクラー設備設置工事实施設計業務委託（301万2千円）
- 簡易陰圧装置、1病棟ナースコール、白内障手術装置、電子内視鏡システム、歯科口腔外科診察ユニット等（7,647万8千円）

#### 6 経営効率化への取組

- 経営コンサルによる第三者評価の実施、各職場の目標設定やコスト意識の徹底、薬剤メーカーやSPD委託業者等への価格交渉の徹底 ⇒ 診療材料等（薬剤除く）購入に係る効果額：約228万円
- 診療報酬請求の精度管理の徹底、診療報酬単価の増加対策として施設基準を新規に届出（5基準）したほか、指定自立支援医療機関（精神通院医療）の指定を更新した。

#### 7 未収金の状況

- 弁護士法人への回収業務委託の継続、窓口での催促や支払相談、電話督促等の徹底  
・令和6年3月末窓口未収金 2,063万3千円（前年度比117万3千円減、5.4%減）

#### 8 総括

- 入院延患者数 50,892人（前年度比6,814人増）入院収益 15億1,363万円（前年度比1億1,875万1千円、8.5%増）
- 外来患者数 80,730人（前年度比3,445人増）外来収益 7億5,963万5千円（前年度比▲5,544万6千円、6.8%減）
- 訪問看護件数 8,922件（前年度比202件減）訪問看護収益 8,865万2千円（前年度比34万6千円、0.4%増）
- 通所リハビリテーション 3,453人（前年度比160人減）通所リハビリ収益 3,644万3千円（前年度比▲173万5千円、4.5%減）

○医業外収益のうちコロナ関連補助金：5,804万6千円（対前年比 ▲744万4千円）

○経常収支： 216万円（前年度 2,128万3千円）

○純損益：3,999万2千円（前年度 ▲1億4,782万6千円）

### 【原因と分析】

○入院収益では、地域医療連携室の体制を強化するとともに県境を越えて隣接する但馬地域の病院等と連携し入院患者の受入れ等を積極的に行い、一般病床の患者数の増加（前年度比14.5%増）及び療養病床の患者数の増加（前年度比17.1%増）により、入院収益は増加した。

○外来収益では、患者数は増加（前年度比4.5%増）したものの、コロナ関連の診療報酬の改定により外来収益は前年度より減少した。

○コロナ禍の影響もあり在宅療養の需要がある訪問看護は、訪問回数は微減したものの診療収益は昨年度とほぼ同額であった。また、通所リハビリテーションは利用控え等により利用者が減少した。

○医療機関病床確保等支援事業などのコロナ関連事業補助金の収益等もあり、事業収益が増加し経常収支及び純損益ともに黒字となった。

## 9 経営指標の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支比率	100.2%	98.5%	100.6%	100.7%	100.1%
修正医業収支比率	87.2%	80.4%	84.5%	83.4%	82.7%
病床利用率	86.8%	74.7%	79.6%	72.3%	81.8%
職員給与費比率	69.5%	76.3%	71.9%	72.4%	71.5%
有形固定資産減価償却率	73.3%	74.9%	76.1%	74.6%	76.3%
機器備品減価償却率	78.0%	79.2%	79.1%	70.5%	72.7%

○経営の健全化を示す経常収支比率は、100.1%で、前年度比0.6ポイント減少したが、健全経営の水準とされる100%を上回った。

- 医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は 82.7%で、前年度比 0.7 ポイント減少となった。
- 償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、令和 4 年度に整備した電子カルテシステム導入により、前年比 1.7 ポイント増の 76.3%となっており、そのうち医療機械備品の減価償却率を示す機械備品減価償却率も前年比 2.2 ポイント増の 72.7%となった。